



お知らせ

2015PC カンファレンス

2015PC カンファレンス

開催日時：2015年8月20日(木) 21日(金) 22日(土)

開催場所：富山大学

※詳細については、ウェブに掲載します。

CONTENTS

- 1 2014九州PCカンファレンス報告
- 2 CIEC研究会開催案内
- 3 CIECからのお知らせ
- 4 CIEC活動日誌



1. 2014九州PCカンファレンス報告

テーマ：「おんせん県おおいたで考えるグローバル教育」

日時：2014年11月8日(土) 13:00~9日(日) 12:30

会場：立命館アジア太平洋大学 H棟 (全体会場)

2. CIEC研究会開催案内

CIEC第105回研究会

テーマ：越境する学びー不確実・不安定な状況に対応できる学びー

日時：2015年1月5日(月) 13:00~16:30

会場：大阪工業大学 うめきたナレッジセンター

共催：教育システム情報学会関西支部

日本情報科教育学会 近畿・北陸支部

NPO 学習開発研究所

※詳しくは http://www.ciec.or.jp/ja/study/info_ciec105.html

CIEC外国語教育研究部会第7回学習会

テーマ：iBooks Author ワークショップ

日時：2015年1月11日(日) 13:30~17:00

会場：大学生協杉並会館 204・205会議室

※詳しくは http://www.ciec.or.jp/ja/study/info_flg07.html

3. CIECからのお知らせ

会誌投稿募集

4. CIEC活動日誌

会員状況

◆ 個人会員 ◆

教員	602	大学職員	20
院生	56	学生	7
生協職員	53	企業	31
研究員	7	その他	45

◆ 団体会員 ◆

企業	33	生協	53
大学	1	高校	1
法人	1		

(2014年11月30日現在)

2014九州PCカンファレンス報告

2014九州PCカンファレンス in APU

テーマ「おんせん県おおいたで考えるグローバル教育」

日時：2014年11月8日（土）13：00～20：00

・基調講演・シンポジウム・特別報告
・メーカーブース・懇親会

2014年11月9日（日）9：00～12：30

・分科会

会場：立命館アジア太平洋大学

H棟（8日）およびF棟（9日）

公式サイト <http://kyushu.seikyoku.ne.jp/pcc/>

主催：2014九州PCカンファレンス in APU 実行委員会

全国大学生生活協同組合連合会九州ブロック

共催：一般社団法人 CIEC（コンピュータ利用教育学会）

後援：立命館アジア太平洋大学

特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいた
大分合同新聞社

2014九州PCカンファレンス in APU、初日の基調講演とシンポジウムに参加した。全体のテーマが、「おんせん県おおいたで考えるグローバル教育」という、ユニークかつ興味がおそられるものであり、期待をもって臨んだ。

基調講演では、小野博氏（福岡大学・昭和大学）が「大学に求められるグローバル人材の育成と新しい動き」というテーマで講演をされた。今後の世界における日本の立ち位置についての導入では、日本の人口減少の加速化にともない、日本企業は海外に対して、ハードからソフトへの進出が求められ、その成功例として、上海での日帰り温泉、チベットにおける検診車、インドネシアのコンビニのおにぎりなど、日本独自の文化と細やかなサービスが成功していることを紹介された。

次に、21世紀の日本の大学の課題として、18歳人口の減少・入試の多様化について述べられた。グローバル人材育成については、とりわけ英語力の養成が課題となっていることを重要視され、もはや英語の出来る一握りの者だけが海外に進出するような時代ではなく、学生全員がグローバル人材にならなければならない、育成ができない大学は存続できないと言及された。氏は、英語力と国語力との関係について、「日本語は学力・英語は努力」という表現をされ、日本語が出来ない者は英語の力はあがらない、すなわち日本語力がなければ、大学の講義についていくことが困難で、そのような学生がいくら英語を勉強しても英語力の伸長は望めないという意見である。

グローバル人材育成のためには、留学および海外でのインターンシップなど、異国の地で学ぶことが大切であり、大学側としては、大学の費用で外部試験対策などのための英語の授業を提供し、留学などのためには事前英語学習提供が不可欠で、そのことにより、事前学習の重要性の認識高まり、海外に行くためには、徹底的に英語力をつけさせて行くことを強調された。

事例としては、明治大学の留学前基礎英語力強化策の成果、東京海洋大学での英語力の上昇（4年への進学・大学院受験資格をTOEIC 600点とした効果）で学内・世間の見方が変わったこと、リメディアル教育の取り組みとして、北海道情報大学とタイの理系大学を相互訪問し、ITワークショップを通じて英語力を高めていること、さらに北海道学園大学で

は、シンガポールで貿易のインターンシップを行い、本物のビジネス英語力を身に着けたことなどが紹介された。英語力を高めるためには、何よりも海外で英語を使わなければならない状況を作り出し、そこでの成功体験をもとに自律学習へと導くことが肝要であると感じた。

シンポジウムは、牧田正裕氏（APU 国際経営学部）のコーディネートにより「APUのグローバル教育」というテーマで進められた。



立山博邦氏（教育開発学修支援センター）の「多文化社会でのスキルと対応力を学ぶワークショップとピアリーダー育成」では、多文化環境を活かした学びと、世界をフィールドにした学びについて述べられた。在学生の約半数が留学生であることの利点を生かした、新入生のワークショップ（異文化間協働）、海外派遣プログラム（ホームとアウェイの違いの体験）、1年時に3泊の韓国フィールドワーク研修を行い、自力で韓国内を2カ所訪れ、インタビューをするというミッションが人間的に学生を大きく変えることなど、APUならではのユニークかつ魅力的な教授法が紹介された。

次いで、3名の学生（留学生2名、日本人学生1名）によるサポート活動の体験報告がなされた。「APハウスでの生活」では、寮長（RA：Resident Assistant）の役割とVTRによる寮生活のルールの紹介が2人の留学生のとても流暢な日本語で語られ、フロアには和やかな雰囲気があった。「ICTを活用した学生サポート活動」では、ALRCS（Academic Learning Resource Core Staff）として活躍する日本人学生の現在の仕事内容が紹介された。メンバーは国際学生の方が多く、主な仕事は、インターネット接続、PC講習会等、構内のICT環境に関わるサポートであるが、すべてを日英両言語で教えることの困難さを感じているが、学生目線で学生サポートを続けていくことに大きな使命を抱いている、と強調された。

最後は、磯崎修治氏（立命館生活協同組合）が「生協のグローバル対応～ハラル対応と英語表記」について、述べられた。取り組み例として、日英の二言語対応、国際学生の生協加入推進、ゴミ袋（分別）、IH対応のフライパン販売、ハンバーガーの中味の提示（宗教によっては食べられない）、海外向けFAX送信サービスが挙げられた。特に、400人近く在籍するムスリム学生への配慮として、ハラル（イスラム法で許された項目のことで、主にイスラム法上で食べられる物のことを表す）対応がなされていることは、注目される大学生協の取り組みであると感じた。

フロアからの質問も多くあり、小野氏からの、大学に馴染めない学生への対応はどうしているのかという問いに対しては、国内学生は、大半が第一志望なので積極的であること、大学は「箱」ではなく「しかけ」作りにより、学生のコミュニケーション力とモチベーションの高さで維持されていること、授業の中では協働学習を取り入れて、多様な学生同士が交流できる教育をデザインしているという回答がなされた。さらに、教育面でのFDとして統一している点については、アクティブラーニングにより受講生を主体的に学ばせるよう仕向け、ジレンマを引き起こさせるような葛藤に対するチャレンジ精神を養い、その学習プロセスを振りかえさせるというポリシーを、教員間で共有しているという。



まとめとして、牧田氏が述べられた「APUにとっては、グローバル人材育成は開学当初から行ってきたことであり、日本の大学全体がこのような状況が普通であるという将来が望まれる」という言葉が印象的であった。

文責 吉田晴世（大阪教育大学）

11月9日(日) 分科会

第1分科会 (F棟1階 F109教室) 司会: 竹川 俊一 (立命館アジア太平洋大学)

時間	氏名	所属	タイトル
9:00~9:30	木村 修平	立命館大学生命科学部	反転教授型リメディアル英語コースにおける教材動画製作の実際 —作業量と予算の観点からフィージビリティを考える—
9:30~10:00	板倉 隆夫	鹿児島大学水産学部	「英語の見える化」で初めて英語がわかった —地方大学の理系研究室で始まった奇跡—
10:00~10:30	宮川 浩人	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部	PRENGO のとりくみについて
10:30~11:00	武本 幹雄	一般社団法人プテラ代表理事	e-Kamishibai のとりくみについて

第2分科会 (F棟1階 F110教室) 司会: 佐藤 浩人 (立命館アジア太平洋大学)

時間	氏名	所属	タイトル
9:00~9:30	川添 将太 森 邦彦 古屋 保	鹿児島大学大学院理工学研究科	ビッグデータ用DB Cassandra の Web 管理ツール
9:30~10:00	米満 潔	佐賀大学 eラーニングスタジオ	3Dプリンタを活用した教育についての研究
10:00~10:30	田口 知子	佐賀大学 eラーニングスタジオ	佐賀デジタルミュージアムの構築
10:30~11:00	古賀 崇朗	佐賀大学 eラーニングスタジオ	県職員の研修における eラーニングの活用
11:00~11:30	阿濱 茂樹	山口大学教育学部	学びのニーズを重視した初年次教育の実践 ～SEQを活用した自己理解を通して～
11:30~12:00	片岡 久明	南九州短期大学	EPUB3 電子テキスト作成の基礎

第3分科会 (F棟1階 F111教室) 司会: 樋口 直樹 (大学生協九州事業連合)

時間	氏名	所属	タイトル
9:00~9:30	山川 由莉	鹿児島大学生協同組合	社会人になって感じたこと
9:30~10:00	大石 祐梨子	鹿児島大学生協同組合	教科書販売所場所変更に伴う組合員満足度について
10:00~10:30	熊澤 典良 鶴 高輔 馬場 加奈	鹿児島大学大学院理工学研究科 鹿児島大学工学部 鹿児島大学生協同組合	パソコン活用講座における統一カリキュラムの導入 — 鹿児島大学生協同組合の取り組み —
10:30~12:30	北村 士朗 古迫 文乃 久保 拓史 伊藤 晃太 山本 菜摘 田島 宏樹 斎藤 未歩子 板坂 裕樹	熊本大学大学院社会文化科学研究科 北九州大学法学部 大分大学教育学部 大分大学工学部 大分大学経済学部 鹿児島大学法文学部 鹿児島大学法文学部 琉球大学農学部	大学生協パソコン講座のとりくみ

CIEC 研究会開催案内

【CIEC 第 105 回研究会】

■テーマ：「越境する学び — 不確実・不安定な状況に対応できる学び —」

■日 時：2015 年 1 月 5 日(月) 13:00～16:30

■会 場：大阪工業大学 うめきたナレッジセンター
(大阪市北区大深町 3 番 1 号グランフロント大阪
ナレッジキャピタルタワーC9 階)

<http://www.oit.ac.jp/umekita/#Access>

■主 催：CIEC

■共 催：教育システム情報学会関西支部
日本情報科教育学会 近畿・北陸支部
NPO 学習開発研究所

■開催趣旨

CIEC 小中高部会は、今、ICT をどのように利用するかだけでなく、教室の「学び」そのものに焦点を当てようとしています。そこで、CIEC 第 105 回研究会では、高大接続で求められる学びとは何かを探るため、大学の情報教育と中学・高校の事例を取り上げました。また、2014PCC セミナー1 では、現役の高校生が、パネル発表やこれからの情報教育について語りました。高校生の発表や意見に直接接することは、多様な視点から「学び」について議論することの大切さを再認識させるものでした。

このたびの CIEC 研究会は、小学校・中学校・高等学校・専門学校・大学等すべての教育機関における新しい「学び」を、できるだけ多様な視点から議論できる場となることを目指して開催いたします。

この研究会では、学校で当然のことと思われ、決まりきった日常活動になっている「学び」に、変化をもたらすための機会として「越境する学び」をテーマとし、ワークショップ形式で開催します。そこでは、中学生・高校生・大学生を含み、教員、教育関係者、教育に関心のある社会人までの幅広い参加者が、立場や違いを越えて対等に議論することを想定しています。ICT を活用すれば「学び」が自動的に促進され、タブレットなどを導入するだけで子ども達の「学ぶ意欲」は向上すると報道される傾向もあります。しかし、導入しただけでは教育効果が上がらず、ICT 活用教育が否定されることさえ起こっています。ICT の活用と何が組み合わせられれば、「学び」がうまく展開されるのでしょうか。日常生活でスマートフォンをよく使う生徒・学生とともに、教え手・伝え手が ICT を活用した「学び」について検討する機会はほとんどありませんでした。ICT は多様化する学びをサポートするツールです。しかしながら、考えることを自分で学び、あるいは、学び直すために正しく問題を提起するためには、自分の言葉で語るができる場が必要です。

「学び」について、人としてのすべての違いを越えてお互いが対等の立場で協働し議論しませんか。初等中等教育から高等教育まで一貫した「学び」やオープンエデュケーションで期待される生涯学習を含めたこれからの多様化した「学び」に関心のある方、教育全般に関心をお持ちの方、現役の生徒・学生の方など、多くの方がご参加いただけることを希望しております。

■プログラム

- 12:30～ 受付開始
- 13:00～13:05 開会の挨拶
- 13:05～13:15 開催趣旨説明
- 13:15～14:15 グループワークその 1
「ICT を活用した学びで伸ばすことができる力は何か？」について、グループごとに討論する
- 14:15～14:35 休憩
- 14:35～15:35 グループワークその 2
他のグループの意見を確認するためのワールドカフェ (10 分)
「これからの学びに必要なものは何か」について討論しまとめる
- 15:35～16:20 共有と意見交換
グループごとにまとめたものを発表し、全体で意見交換する
- 16:20～16:30 閉会のあいさつ (アンケート記入)

【CIEC 外国語教育研究部会第 7 回学習会】

■テーマ：iBooks Author ワークショップ

■日 時：2015 年 1 月 11 日(日) 13:30～17:00

■会 場：大学生協杉並会館 204・205 会議室 (東京都杉並区和田 3-30-22)

<http://www.univcoop.or.jp/about/map.html>

■講 師：林 拓也 氏 (オーサリング・エンジニア、テクニカルライター)

■開催趣旨

iBooks Author を前もってインストールしてある Macintosh Laptop などを参加者に持参してもらい、基本的な手法を学んでもらう集中的な半日ワークショップを実施します。講師は Web コンテンツ/電子書籍等の受注制作、技術書の執筆、トレーニング/セミナー等の講師など各方面で活動中の林拓也氏 (が担当します。前半は基本的な制作の基礎を学び、午後は各自が用意したデータを使った電子書籍の制作をし、その後制作したものの発表し、評価し合うスタイルで実施します。自分のデータを用意できない参加者には、当方の用意した教材データで電子書籍を作成してもらいます。奮ってご参加下さい。

■プログラム

- 13:00～ 受付開始
- 13:30～ 開催趣旨説明
- 13:40～14:40 iBooks Author の基本の基本
- 14:40～15:00 休憩
- 15:00～16:30 自分の電子書籍を作ってみよう
- 16:30～16:55 質疑応答
- 16:55～17:00 閉会挨拶

研究会のお申し込み・お問い合わせ

CIEC 事務局 e-mail sanka@ciec.or.jp

TEL/FAX 03-5307-1195/03-5307-1180

Web サイトでもご案内しております。

URL <http://www.ciec.or.jp/>

CIEC からのお知らせ

《会誌投稿募集》

CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション Vol.』Vol. 38
(2015 年 6 月 1 日発行予定)

◎2015 年 2 月末日
◎問い合わせ先 CIEC 会誌編集委員会
◎送付先 〒東京都杉並区和田 3-30-22 号大学生協会館
CIEC 会誌編集委員会事務局
TEL 03-5307-1195
e-mail edit@ciec.or.jp

CIEC 活動日誌

[2014 年 10 月]

26 日 新旧三役引継ぎの会および第 1 回三役会議

[2014 年 11 月]

11 日 CIEC 第 103 回研究会（東京学芸大学附属高等学校）
「スマートデバイスの教育活用への可能性」

16 日 第 62 回会誌編集委員会

[2014 年 12 月]

13 土 CIEC 第 104 回研究会（椋山女学園大学星ヶ丘キャンパス）JSET 研究会 14-5 との連携開催
「地域連携と学びへの支援」

20 日 生協職員部会世話人会

21 日 第 2 回三役会議三役会議
2014 年度第 2 回 CIEC 理事会
広報・ウェブ委員会